池田カトリック新聞WEB版

2023年10月号
(596号)WEB版

キリストの受難 カトリック池田教会
主任： 中村克徳司祭
住所： 〒563-0041　池田市満寿美町9－26
TEL ： 072-751-2400　FAX：072-753-4624
URL(ホームページ)：http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm

本号の記事の主題など

ノノイ神父様より
池田教会の皆さんへのメッセージ
10月のガラスケースのみ言葉と解説
中村克徳C.P.
ワールド・ユース・ディ Lisbon 2023　その1
四年振りの日曜学校の夏キャンプ
IYD (= Ikeda Youth Day) に参加して
息子は仲間とキャンプを楽しんだ
DVD「用水路が運ぶ恵みと平和」を鑑賞
7月23日　大人の日曜学校だより
稲葉善章神父様が三浦海岸教会へ転出
今月の表紙の絵について
宝塚黙想の家からのお知らせ
みんなの談話室
俳句　2句

ノノイ・プラザ神父様から
親愛なる池田カトリック教会の皆さんへのメッセージ

昨年秋に、ノノイ神父様がフィリッピンに帰国されてから、早や一年が経とうとしています。『からしだね』誌上で、皆さんと一緒に、ご近況を分ち合っては？との、編集長のお声かけが有り、神父様にメールで問い合わせをしてみました。神父様は、８月に御受難会フィリッピン管区の管区長に選出され、大変お忙しい中を４枚の写真入りのお返事を下さいました。まず初めに、メール最後の部分に書かれていた、神父様から池田カトリック教会の私たち皆へのメッセージをお伝えします。

『今年の残る月日は、全フィリピンの御

受難会共同体を公式に廻ることに、捧げます。これは、管区長としての多岐にわたる仕事の一部です。ひと時、このように、親愛なる池田カトリック教会の皆さんに、私の最新情報をお届けする時間を持てることに感謝します。皆さんから遠く離れ寂しく思っています。皆さん全員が、お元気でありますように祈っています。何卒お身体を大事にしてください。神様が皆さんを祝福されますように。』

山に登って行かれる神父様です。管区長用の宿舎の１つがある、ジェネラルサントス市から、ミンダナオ山岳地帯への登山口まで、約2時間を車で、それから、徒歩で２～３時間かけて山に登って行かれます。雨が多い地域で、ぬかるみや、毒蛇に悩まされる道です。お天気であれば、車が入れるそうですが、雨が多く、雨の時は、写真のように徒歩で山に入られます。ビラーン山岳地帯には、御受難会が運営する山岳民族の子供たちの為のミッションスクールがあり、丁度、初等科の卒業式、それに重なって、ノノイ神父様の叙階３５周年記念日、又それに重なって、同僚の御受難会司祭の誕生日というお目出度い日となり、現地の方々は盛大に祝ってくれ、楽しい席になったということです。山岳民族の子供たちと父兄たちは、カラフルな、民族衣装を身につけて卒業式に参列します。

管区長としての神父様の住居は２か所にあり、一つはミンダナオのジェネラルサントス市、今一つは、首都マニラのパラナーク市にあります。ミンダナオ地域では、御受難会は２つの教会、各々、２万人以上の信徒を擁しています…のお世話をされています。又、御受難会は山岳原住民への宣教の使命も負っていて、この原住民の数はともすれば数十万人にも膨らみます。ここ、フィリッピン南部では、御受難会は神学校及び、修練院を運営しています。

フィリッピン北部では、５ヶ所の教区をお世話し、２つの神学校、即ち志願者の為、と、神学を学ぶ為の短期大学を運営されています。神父様がこのお返事を書かれている時は、丁度、１カ月のイスラエルへの教会公式視察訪問から、帰られた所でした。現地の修道院長から、新規に整備された現地の聖堂を祝福するようにとの依頼がありました。イスラエルでは５万人以上のフィリッピン人が働いています。御受難会員は、他の会のフィリッピン人司祭を手助けして移民たちへの宣教活動をしていま

す。

　このメールを下さった時刻は真夜中を３０分過ぎている時刻でした。神父様はそれから、午前4:00発の飛行機で、パラワンに飛び、その日の午後から、金曜日に続く宗教指導者たちの会議に出席される予定でした。

　ここから冒頭に挙げた神父様から池田カトリック教会の皆さまへのメッセージとなります。

お返事を読み終えて

　ノノイ神父様は大変な重責と、お仕事量を肩に、頑張っておられる事を知りました。ノノイ神父様のご健康と、全世界の御受難会共同体の上に神様の護りがありますように、心よりお祈りしております。

(S.I.)

10月のガラスケースのみ言葉

必要な事はただ一つだけである

ルカ10章42節

10月のみ言葉についての解説　　中村克徳 神父

現代は情報化社会と言われています。既存のメディアである新聞やラジオ、テレビなどはもちろんのこと、インターネットの普及により、世界中のあらゆる情報をパソコンやスマートフォンで簡単に手に入れることができます。最近ではChatGPTと呼ばれる、AI機能を用いた高度な検索機能を備えたソフトウェアも登場し、既に企業や大学で活用されているようです。これらの便利な情報機器を用いれば、図書館や書店に足を運ばずとも、必要と思しき十分な情報や知識を、自宅に居ながらにして得ることができるのです。

これには、メリットとデメリットがあります。目的の情報を素早く得られるのは最大の利点ですが、情報があまりに多すぎるために、答えを一つに絞るのに難儀することもしばしばです。同じ出来事を調べていても、資料ごとにまったく異なる情報が書かれていることも少なくありません。中には悪意に満ちた偽情報と思しきものも存在するため、それを見極めるために更なる情報を探すことになります。

ネットショップの写真で気に入った商品を購入しては見たけれど、届いたものを手にしてがっかりした経験を持つ人も多いのではないでしょうか。そのため、やはり店舗で手に取ってみてから購入しようと出かけてみると、同じような商品が幾つも並んでいるため、選ぶのにひと苦労することになります。

以前、友人のギター購入の際に同行した時のことです。安価な物から高価な物まで様々なギターが並べられている中で、初心者に最も適したギターを探すのは骨が折れそうだと考えていると、友人は10分もしないうちにお目当てのギターを見つけて、その場で購入を決めました。自分なら1時間たっても決められなかったかも知れません。確かに、選んだギターは友人が演奏するのに最も適した物でした。限られた時間の中で最善の選択ができたのは、必要を満たすものが見つかったら直ちに決断するという実行力を、友人が備えていたからだと思います。この実行力は信仰生活に大いに役立つものです。

ルカ福音書の10章には、イエス様がマルタとマリアの姉妹が住む家を訪れた時の出来事が描かれています。姉のマルタは訪問者のもてなしに追われているのに、妹のマリアはイエス様の話に聞き入っていて、まったく手伝おうとしません。マリアの態度が腹に据えかねたマルタは、イエス様のもとに行って、もてなしを手伝うようにマリアに言ってくださいと嘆願しました。しかしイエス様の言葉は、マルタが驚くような答えだったのです。

「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要な事はただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

恐らくマルタは、よく気がつく、思いやり深い、配慮に満ちた女性だったのでしょう。それが徒（あだ）となって、いま何を優先すべきなのかを正しく見極めることができなくなっていました。イエス様がマルタに望んでいたのは、マリアと共にイエス様の話に耳を傾けることだったのです。

「必要な事はただ一つである。」多くの情報に振り回され、適切な答えを見つけるのに困難を覚えるとき、このイエス様の言葉を思い出すことができますように。

ワールド・ユース・ディ Lisbon 2023 に参加して　その１

四倉　夏

池田教会から島田、三島、そして四倉の3人が世界中の青年たちと、そして教皇様とともに祈りをささげるワールドユースデイ（WYD）に参加し、たくさんの方々のご支援の下、かけがえのない日々を過ごしてきました。皆さんへの感謝と見てきたことを伝えるため、私たち3人でその感想を書かせていただきます。

私はこのうち、7月31日から8月2日までにあったことをお話しします。この期間というのは、ポルトガルに到着してから、開会ミサを経て、同行させていただいたサレジオ修道会の青年たちとの交流といった出来事がありました。

ポルトガルの首都リスボンについたのは7月31日の朝でした。先客はまだ少なく、まだ町も歩きやすかったのを覚えています。私たちはまず、宿泊するサレジオ会の学校へ行き、そこで荷解きをした後で、近くの教会を歩いて回り、そこでロザリオをささげました。ポルトガルには角を曲がった先や道の向かい側など、道の数ほど教会がたくさんあり、しかもその教会一つ一つがとても荘厳なものでした。その教会巡りだけでほとんど一日が過ぎました。上の写真はリスボンの小高い丘から街並みを一望しました。左から島田、四倉、三島です。

月が替わって8月1日の翌朝、世界中の国々から続々と人々がリスボンへと集まってきました。昼過ぎまで昨日回り切れなかったリスボンの中心にある由緒あ

る教会などへ向かったのですが、そこはもうあらゆる国々の人々で埋め尽くされ、あまり自由に移動できませんでした。人々は自分たちの国旗を先頭に列をなし、それぞれがはぐれないように歩いていました。しかし驚いたことに、それらの人々はとてもわきまえた人々だったのです。というのも道は当然いっぱいで、車が通れる余地はなかったのです。しかし、車が来ると、車は何とか道を進むことができています。みんなが考えを一致させ、道を開いたからです。それぞれが自分のことしか考えないのではなく、他のことにも積極的にかかわっていくという人々が多いように感じました。

そして午後はWYDの開会ミサがありました。冒頭でWYDについて簡単に説明しましたが、詳しく言うとまず開会ミサがあった後、教皇様をお迎えし、最期に教皇様と一緒にミサをささげます。開会ミサは広場で行われ、そこに約100万人の青年が集まりました。その帰りにはそれぞれの泊まっている場所へ帰っていく人々と、ハイタッチをしたり、それぞれの持ってきたものを交換したり、踊ったりして、みんなとのつながりを強めました。

8月2日、この日の朝、日本のほかの巡礼団の方々と交流した後、一緒に巡礼しているサレジオ会の集会に参加し、あらゆる国々のサレジアンと交流しました。10万人ほどはいたと思います。私たちは浴衣や甚平などを着て、日本人ということをアピールしていました。これは海外の人々の評判がよく、あちこちで一緒に写真を撮ってくれと頼まれました。その場は開会ミサの後のようにみんな一緒に騒ぎ回っていました。しかし、祈りの時

間になるとその場は静寂に包まれて、とても一体感がありました。

最期に、私が感じたWYDはとても言葉で表すことのできない熱気とともにありました。また、WYDに来た人たちの仲間意識というのも強く、それらがあの新鮮な日々を作り上げられたのだと思います。私を送り出してくれたすべての人に感謝して、私の感想を終わります。

四年振りの日曜学校の夏キャンプ

R.M.（キャンプ企画担当）

７月３１日～８月１日、日曜学校のキャンプを日本バプテスト同盟猪名川研修センターで行いました。

参加してくれた子どもたちは４年前と比べるとかなり少なかったのですが、幼稚園から高校生、青年も集まって池田教会らしいアットホームなキャンプになりました。猛暑が続いていたので子どもたちの体調が心配でしたが、みんな元気いっぱいの様子でオリエンテーリングやスイカ割り、水遊び、花火などを楽しみました。一緒に遊び、ご飯を食べ、一つの場所に集まって共に祈る…シンプルなことですが、この活動を通して、子どもたちは「いつも共にいる仲間･いつも共にいてくださる神様」を感じてくれたのではないかと思います。

IYD（= Ikeda Youth Day）に参加して

ヨシュア

初めてリーダーとして子どものキャンプに参加させてもらいました。池田の小教区から離れてもう5年経ってしまったので、知ってる子、知らない子、私が一方的に知ってる子、色々です。でも、お互い知らなくても、数時間もあればみんな打ち解け合うものですから、あんまり心配もしていませんでした。

今まで池田教会ではずっと下の名前で呼ばれていたのですが、このキャンプではみんなに苗字で「〇〇リーダー」と呼ばれたのは新鮮でした。ついにリーダーと呼ばれる歳に、立場になったのかと思わされました。とはいえ、子どもたちのパワーを前に終始圧倒されて、2回ほど休憩室で横になってしまい、とても立派なリーダーではなかったのですが・・・。部屋で文献を読んで難しいことを考えたフリをするのも結構ですが、体力も必要ですね。ともあれ久しぶりのスイカ割りや水遊びでは、子どもたちと一緒に大はしゃぎしていました。子どもたちとの寝る前の祈りで中村神父さま、畠神父さまとSalve　Reginaを歌ったのもいい思い出です。

一番感銘を受けたのは、2日目の午前[注2]ミサで垣間見せた子どもたちの霊性の深さです。練習では一部を一回通した程度なのに、新しいミサ曲も、対話句、記念唱、栄唱から平和の挨拶までも、子どもたちはしっかり歌っていました。答唱詩篇も二人の小学生が元気いっぱい歌ってくれました。東京で通っている教会では歌ミサも珍しいですし、子どものミサでは7月でも前の式文を使っていたのでそれだけでも感動しました。しかし本当に驚いたのは子どもたちが準備した共同祈願です。子どもたちはすでに、自分だけではなく周りの人のために祈ることを知っていました。準備に奔走してくれた池田教会のリーダーたちのため、キャンプに来られない他の子どもたちのために祈りを捧げる彼らは、「主のみ名のもとに集まる」ことの意味を深く理解しています。「ここに主がおられ、ここに教会がある」。ミサの中でそう確信しました。キャンプで受けたお恵みを大事にしながら、子どもたちが成長していけますように。アーメン。

息子は仲間とキャンプを楽しんだ

谷川基務

子供のためのお泊まり会でいつも参加する（とっても元気な）子供たちに加え、中学生・青年と大人で夏のキャンプを息子と一緒に味わってきました。猛暑が続いていましたが、初日は比較的雲もかかる時間もあり、水遊びやスイカ割りなど外で元気に遊ぶ時間も非常に楽しく過ごせたと思います。夜は花火、お兄さんの盛り上げの中、夜空に打ち上げ花火もたくさん打ち上げてくれて、子どもたちはとても楽しそうでした。ギリギリ雨が降りかけていたところなんとか最後まで花火をこなせたのは神様のおかげ？そういった盛り上がりもあり、また初めてだったり4年ぶりだったり…昼間に暴れまわっていたとしても、21時消灯後にすぐに眠れるわけがない。それだけ楽し

かったということでしょう。

山の中ということもあり翌朝はわりと涼しく感じました。連日熱帯夜を経験していた体からすると、この涼しさは久しぶりの感覚。夜間に木の根元に仕掛けていたスイカにカブトムシはついていませんでしたが、こういったことを経験するのもキャンプの醍醐味。二日目は雲一つない青空の中での外遊び、なかなか暑かったです。昼前にはみなでミサを、子どもたちで自ら考えた共同祈願とともにささげました。

大きなケガもなく、無事に過ごすことができたのは神様が一緒にいてくださっていたからでしょう。恵みのある二日間を過ごせたかと思います。

稲葉善章神父様が三浦海岸教会（横浜教区）へ転出されました

カトリック三浦海岸教会の司祭が病気養療で休職されたために、請われた稲葉神父様が急遽7月から宝塚修道院から神奈川県三浦半島がある教会に転出されたとのことです。

稲葉善章神父様は2020年9月に池田教会の改修工事を終えた聖堂において、前田万葉大阪大司教の司式で叙階され、その後は、池田教会のミサを司式されたり、池田教会の待降節の黙想指導者や本誌の巻頭言の執筆者、2022年7月には池田教会で堅信式に臨む池田教会の中学生6名を指導者として司牧されました。

寂しくなりますが、再会の時を楽しみにしております。

DVD「用水路が運ぶ恵みと平和」を鑑賞
平和旬間の集会で

平和旬間行事の取りくみとして８月６日に平和祈願ミサ(約100名参加)を行い、ミサ後中村哲医師のアフガニスタンでの用水路事業を記録したDVD「用水路が運ぶ恵みと平和」（ペシャワール会制作、2016年）を鑑賞しました。その後、小グループに分かれて、ビデオ内容について分かち合いを行いました。約５０名が参加。

さらに、アフガニスタンでの医療、用水路建設の様子、用水路完成後のアフガニスタンの状況等のパネル展示と中村医師の著作の委託販売を行い、ペシャワール会への募金を呼びかけました。集まった募金額は25,244円でした。

参加者より多数の感想が寄せられましたがその一部を報告します。

◎一人の熱い思いが色々の人々を動かしたすばらしさに感動しました。

◎「働き口があり、食べるものがあれば、誰も戦争に行かない」という現地の人の言葉、その通りだと思う。

◎真の指導者とは生命を守ることに全力を尽くす人で自分の欲望を満たす人ではない。

◎中村医師の素晴らしい行いにただただ頭が下がります。彼の意志を支えたスタッフの方々やご家族にも尊敬の念を感じます。平和をとり戻すには武器ではない！！ですね。

◎心に染み渡る命の水が平和の根源となります様に。

◎お花畑(平和主義者を冷笑するネットスラング)と呼ばれても、武器ではなくスキとクワで平和を求めようと思う。

◎「とにかく始めてみよう」という言葉はなかなか言えるものではないと思います。人に対する想いと信仰の導きで大きな事業を成し遂げられたことに感銘を受けました。私も勇気をもらいました。

◎見ていて心苦しかった。地球の干ばつは人災だと思う。人間の知恵の使い方ひとつで生と死にわかれると思った。

◎この一編の映画で何といやされたことか。人間のあるべき姿、進むべき道をしっかりと示していた。唯の感動に終わらせず、次の行動をおこしたい。

◎中村医師の働きのすごさを改めて感じました。砂地が緑に変わり作物が出来る状況に感動しました。

社会活動委員会

7月23日　大人の日曜学校だより

研修委員会

『刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい』　　マタイ13章30節

今回の大人の日曜学校は年間第16主日ミサの福音を振り返り、皆で分かち合いました。気がつけば、集まった皆さんの身近に生えた毒麦との交わりの中での苦労話を熱く語り合い分かち合う場となりました。（皆さま、身近の方を毒麦と称してしまった事をお詫びいたします。）

皆さんのお話を聞いているうちに、それぞれ毒麦との間のご苦労を体験されることによって、皆さんが少なからずそこに意味を見つけられ、日ごとの糧として受け入れられている事に気づかされました。

きっとその糧が、たとえ話の『からし種』や『パン種』のように、その方たちそれぞれの心の中の天の国を成長したり膨らませたりさせていくのだろうと思うと、「刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい」（マタイ13・30）と言われたのは「麦まで一緒に抜くかもしれない」（マタイ13・29）という理由だけでなく、毒麦が良い麦をたくましく育てる役割を秘めていることも、神様はよくご存知だったからではないかと確信めいた気持ちになりました。

そう考えると『毒麦』とは、迷惑がったり嫌ったりするだけの存在ではなく、私たちの心と天の国にとって必要な存在に思えてきました。

敵を愛しなさいと仰せられたイエス様と少しだけ分かち合えたような気がして嬉しくなりました。

身近な毒麦を愛することは、イエス様の道に近づくことになるのかもしれませんね。

神に感謝。

今月の表紙の絵について

最近は守護天使の信心について、話題になることが少ないように思われる。教会の教えによると、人間は生まれてから死ぬまで、天使たちの保護と執り成しを受けており、信者は保護者のような守護の天使に付き添われ、護られているのだという。もちろん、わたしたちは天なる神の無限の愛を受け、主イエスの贖いにより罪をゆるされ、聖母マリアの執り成しの祈りをいただいている。その上で、自分が生まれた時から、自分にあてがわれた守護の天使に護られている、という信仰は、なんと心強いことだろうか。とりわけ幼い子供が成長するまでの危険に満ちた道のりで、病気や事故から免れ、無事に成人できたのは、守護の天使が護ってくださったおかげだと感じることも多い。守護の天使という美しい信心をもういちど、身近に引き寄せたいと思う。10月2日は守護の天使の記念日である。

表紙の絵は、ピエトロ・ダ・コルトナ（1596～1669）によって描かれた油彩画で、ローマにある国立古典絵画館（元バルベリーニ宮殿）に収蔵されている。

みんなの談話室

俳句　二句

百合の蕊（しべ）
白き卓布にこぼれけり

縁先に
海の来ている夏料理

川西市地区
S.I.

宝塚黙想の家からのお知らせ

■ 日帰り黙想会 10：00～15:30
10月26日(木) 指導：染野 治雄 神父
10月27日(金) 指導：山内 十束 神父

■ 一泊黙想会
10月20日(金) 17:00～21日(土) 15：30
指導：染野治雄 神父

■ カトリック教会のカテキズム
10月04日(水) 10:00 ～ 12:00
10月18日(水) 10:00 ～ 12:00
指導：染野 治雄 神父

■ 聖地エルサレムを学ぶ
10月12日(木) 10:00～12:00
指導 ： 笹田六合豊 修道士

■ 聖書の基本
10月04日(水) 10:00 ～ 12:00
10月18日(水) 10:00 ～ 12:00
指導：山内 十束 神父

上記の各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎ 0797（84）3111

編　集　後　記

こんなに秋が待ち遠しいとは、まさに国連事務総長が言われたように「地球は沸騰している」を、この夏私たちは体験している。（9月中旬 気温34度C）

これは世界規模で起こる、海流の変動や大気の流れの異常であると、簡単にかたづけられない。地球の気候は、人類の歩む方向に正直な気がする。

我が家付近では、８月の台風以降からセミの声が止み熱帯夜なのに”虫の声”が聴けるようになって、小さい秋を感じている。

天使の微笑